

## 坂さんぽ③

## 「レンガ坂」

中浜一丁目の金毘羅宮・虚空蔵寺の裏の道の、鵜川に向かって下る坂が通称「レンガ坂（煉瓦坂）」である。かつて柏崎では珍しく煉瓦が敷き詰められた坂であったことから、こう呼ばれるようになった。

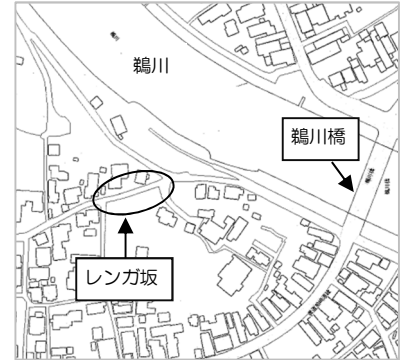
この坂は短く急な坂で、土砂が流れて道が崩れやすかったため町内の人が協力しあって昭和10年前後に煉瓦敷きにしたということが、レンガ坂そばにあった天京荘番頭の話として昭和32年の越後タイムスで紹介されている。

大久保では、明治4年（1871年）から昭和22年（1941年）まで窯業が行われており、陶器・瓦・煉瓦・土人形などが作られていた。北越鉄道の建設工事や日石柏崎製油所建設などで煉瓦が必要となったことから、明治29年には煉瓦製造工場が造られ、一時は「昨今煉瓦職人多数来柏 大洲村大久保工場毎日戦場の如し」と言われるまでに煉瓦生産が盛んであった。北陸鉄道が開通し交通網が発達したことで他の地域から安く良質な陶磁器・瓦が大量に流入することとなり、大正期には窯業を廃業する所がでてきた。レンガ坂には、この大久保産の煉瓦を使用したという話もあるが、昭和期には大久保での煉瓦生産は終了しており、レンガ坂に敷かれた煉瓦が本当に大久保で焼かれたものかは、はっきりしない。

不揃いに煉瓦が敷き詰められていたこの坂は、昭和40年代に入ると、かなり道路状態が悪くなっていたようで、昭和44年8月には柏崎日報に坂の修理の要望が掲載されている。現在ではコンクリートで舗装され往時の面影はないが、今でも柏崎市主催の「柏崎まちなか歩きガイド」のコースに組み込まれるなど、人々に親しまれている坂である。

### ●参考にした資料

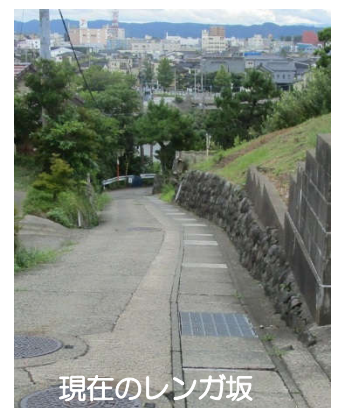
- 『暮らしのあしあと-柏崎の民俗-』西川勉著（382 サイ）
- 『大久保窯業関係資料』柏崎市立図書館編（570 Kトシ）
- 『柏崎の民俗と余録』山田良平著（382 ヤマ）
- 『わたしたちのまち 大洲』『私たちの大洲』編集委員会編（224 ワタ）
- 越後タイムス 昭和32年5月26日号、昭和42年5月14日号
- 柏崎日報 昭和44年8月26日号



レンガ坂地図  
(柏崎市GISベースマップより)



レンガ坂  
(「暮らしのあしあと」より)



現在のレンガ坂

ソフィアだより254号「坂さんぽ②絶景坂」の訂正前月号の記事について、以下のとおりお詫びして訂正いたします。

- ①絶景坂の範囲は、旧国道352号の椎谷鼻灯台脇付近から北方に下った、机立観音堂跡付近までです。
- ②机立観音堂は中越沖地震で倒壊し、現在は跡地に石仏等が残るのみで、仏像は大崎のお寺に移設されました。
- ③左下写真のキャプションは、「椎谷鼻灯台付近から絶景坂と石地方面を望む」です。
- ④絶景坂の大部分は、車両はもとより人も立入りできないので、現在は残念ながら、当時の絶景を楽しむことができません。